

人間に生まれて “つながりを生きよう” 304

いずれの行もおよびがたき身なれば、とても地獄は一定すかぞかし。

今年もあとひと月になりました。例年よりも暖かい十一月でしたが、十二月からは初旬に寒気が入り込む予報がされています。

またコロナ感染も（八波？）また、増加傾向にあります。日頃の体調には十分気をつけて師走を過ごしていきましょう。

十九日午後から冬支度雪囲いをしていただきました、雪つりや雪囲い、庭木の保護、鐘楼堂の黒竹の保護、境内の落ち葉掃きなど沢山の仕事をさせていただきました、ありがとうございます。

本年は昨年同様に大雪になりそうなので被害の出ないことを願っています。



「不安、不満、不信」に陥ると地獄のような世界を体験するようです。時々将来のことを思い不安になり眠れなくなったり、満足できない怒りを抑えきれずに暴言暴動をしてしまったり、信ずることの出来ないことで疑ってみたり、自分で陥るのか、それだけでおさまらず他の縁で陥るか、そのような状況になったとき、今までのこと、今ある事に思考を変え、有り難しことに出来たことを感謝し、これから始まる想像も出来ない新たなことに諸行無常の期待をし、先人達の経験されてきた声をこれからももつと聞いていきたいと今年の報恩講参りで皆さんのお声を聞きながら思いました。ありがとうございます。

12月真敬寺行事予定

- 4日(日) 真宗教室 午後2時
 5日(木) 正信偈の会 午後1時30分
 17日(木) 定例聞法会 午前午後
 本山相続講御助成会
 法話 今井信悟 さん
 31日(土) 除夜の鐘 夜9時

「歎異抄」
 弥陀の本願まことにおわしまれば、
 釈尊の説教、虚言なるべからず。仏説
 まことにおわしまさば、善導の御
 釈、虚言したまうべからず。善導の御
 釈まことならば、法然のおおせそら
 ことならんや。法然のおおせまこと
 ならば、親鸞がもつすむね、またも
 つて、むなしかるべからずさうろう
 か。詮ずるところ、愚身の信心にお
 きてはかくのじょう。

定例聞法会の聞書

七尾市常福寺住職

畠山 浄さん



「親鸞聖人に聞く

観無量寿経の意」

観無量寿経の大きな特徴は、お釈迦様は私たちがお願い願うことを説いて下さっていると同時に私たちがお願い願わない法をも説いて下さっているのですね。

観仏三昧と申しまして、集中して心に仏さまを思い浮かべてひとつになつていく修行が説かれているのですが、念仏三昧と申しまして、「南無阿弥陀仏」の声が響き渡り阿弥陀様を見ることが出来る」と説かれているのですね。「南無阿弥陀仏」とお念仏をするのはすでに阿弥陀様に出遇っている相なのだと言われるのですね。

親鸞聖人は教行信証の中に、阿弥陀様に出遇うことは、阿弥陀様の光があらゆる人のところに届いている、そういう世界に出遇うことなんです。

あらゆるところに仏さまがおいで、此の人もお釈迦様も浄土に生まれて佛さまになる方だったのかと、そういう世界を見せられて出遇っていくことが説かれている

ところを引用されています。

おひとりおひとりが悩んで生きていかれたり、亡くなつていかれたりされた方々、今も生きておられる方々がみんな阿弥陀様の願いの中にある方々であつて、佛さまとなられることに出遇われる世界がこの御経に説かれてあつたのです。

現生正定聚とは生きていく間に佛となり浄土に生まれることが正しく定まつたともがらになる身であることを親鸞聖人は大事にされてきました。

わたし一人であつたり、賢い人であつたり、がんばつた一部の人であつたり、徳を積んだ人であつたりではなく、どんな縁に会つても、どんなあたりがあつても、あらゆる者が共に浄土へのひと

つの道を歩んでいける身にならせていただける教えが観無量寿経には説かれてあります。難しい言葉ですが顕彰隠密と説かれています。

(質問に答えて) そもそも仏教は生きている人間のために説かれたもので、猫や犬のような動物がすぐわかるかどうかということは具体的には書かれてはいないのですが、ただ、仏教の精神をいただきますと、動物からもお念仏を聞くことができ、同じ佛になる「いのち」を生きていると知らされることがあります。次に生まれて来るときは人間に言うのは輪廻転生の考え方だと思うので仏教とは違っています。そしていのちに分け隔てはないというのが念仏の教

えです。虫や犬猫や動物も同じ浄土へいく存在として見ていくことが出来る教えではないでしょうか。わたしの場合、犬や猫も共に同じ家族として生きています。



今辛い思いをされている方は前の人生で何か悪いことをしてきたとか、今の人生で徳を積んだら良くなるかというのはいンドでの業の考え方でして、今優位にある人の立場を維持するための宗教の名を借りた、理屈なんですね。「是旃陀羅」の課題も通じるところがあるので。大臣が阿闍世に母親を殺すというのはこの武士階級では今まであり得ない、そのようなことをするのは旃陀羅と呼ばれる

ような人たち、人間ではないぞと貶められているような人たちになるぞという言い方をして阿闍世を脅したんですね。そうしたらこんな人間扱いされない身分に貶められる恐怖からお母さんを殺すのを止めたんです。

その根拠はインドの宗教には前の世で悪いことをしたから、罪を犯したから、今、差別される人に生まれてきたのだという理屈なのです。とんでもない話なんです、だから差別されてもしかたない、同じ空気を吸い、水を飲んでいてだけで差別されるという恐ろしい話なんです。功德を積んだら少し良くなる。と善意で考えますがそれも根本にあるのは人間のいのちを踏みにじることになるのですね。

浄土真宗はそうではないのです、必ず往生するというのは、インドの業の輪廻転生の考え方によって尊い「いのち」と卑しい「いのち」ということは決してあってはならないという考え方なのです。輪廻転生が業によるという考え方は大変恐ろしいものがありますね。

今現にインドではカースト制は法律では無く、旃陀羅という言葉も使ってはならないことになっていきます、人を貶めるために使われていた言葉は使ってはいけませんと言うことになっていきます。それでも今現在でもその考えがあるのはそう信じ込まされているのですね。苦しいのを我慢して少しでもよいことをしなさいと宗教によって保証されてきたのですから、もうその宗教の枠組みから外れることしかありませんね、でインドではそういう中で仏教に改宗する方もいらっしやいました。

一緒に観経を学びましょう。

先月の行事(十一月)

- 六日(日) 日曜学校 午前9時
- 六日(日) 真宗教室 午後2時
- 七日(月) 正信偈の会 中止
- 十七日(木) 定例聞法会
- 十九日(土) 冬支度雪囲い
- 二十六日(土) 親鸞聖人讃仰の夕べ
- 二十八日(月) 真宗本廟御正忌中継



十一月十二日の
楓の紅葉



十一月十六日の
石碑後ろから医王山
を仰ぐ



十一月二十四日の
本堂側面、銀杏、楓、
桑の紅葉

発行 〒939-1664富山県南砺市竹内440

真宗大谷派(東) 小塚山真敬寺 宮地修

0763-52-0196 携帯電話090-3760-5692



ホームページを開設しました